

概要

<東京都リハビリテーション協議会>

東京都保健医療計画に掲げた取組を着実に進めつつ、高齢化の進展等による新たなニーズに合わせた都のリハビリテーション医療の充実に向けた検討を行う。

1 主な検討内容

- 高齢化の進展によるリハ提供体制のあり方
- 地域におけるリハ支援体制の充実
 - ⇒ 地域リハビリテーション支援体制機能強化検討部会にて議論し、適宜協議会に報告
- リハ職に対する人材育成の充実
- 上記における、東京都リハビリテーション病院の機能、役割の検討

2 検討のスケジュール

検討結果は、次期保健医療計画(令和6年4月～)に反映させる。

都におけるリハビリテーション医療の充実

現状	課題	今後
<p>【リハビリテーション医療の供給】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 回復期リハビリテーション病床 R元:8,075床(H20:2,744床) ○ アウトカム評価による診療報酬 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療構想における回復期病床の不足 ○ アウトカム評価による患者の選別 ※リハの大きな効果が見込めない患者の選別 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 補助金の活用等による回復期病床の増加 〔地域医療構想推進事業費補助金〕 ○ 大きな効果が見込めない、診療報酬の狭間にある患者の受入れ
<p>【リハビリテーションニーズの多様化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢化に伴い複数の疾患を有する患者が増加 ○ 治療が必要な合併症を持ちながらリハを行う、また救急対応が必要なリスクの高い患者が増加 ○ 復職支援は収益に結びつきづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1つの疾患の治療を目的としたリハが中心 ○ 多様化したニーズに合わせた適切かつ円滑なリハが提供できる体制整備 ○ 復職先など、高次脳機能障害に関する理解が十分とは言えない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数の診療科(専門性)が連携して対応できる総合的な診療基盤が必要 ○ がん、呼吸器など幅広いリハの提供 ○ 他の医療機関が有する医療機能を相互に活かす、ネットワークの強化 ○ 復職先での研修、講習など退院後のフォローの充実等
<p>【地域リハビリテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リハは、地域包括ケアシステムを支える重要な要素の1つ ○ 在宅リハや介護予防の需要が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療から介護への切れ目ない移行 ○ ケアマネジメントの質向上とケア職との協働推進 ○ 区市町村(保険者)との連携強化 ○ 災害発生時における地域の医療救護活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地リハ支援センターによるきめ細かな支援 ○ 地域における介護予防等の取組に対する支援の強化 ○ 地域リハ推進広域派遣アドバイザーの設置 ○ 災害時リハビリテーション支援体制の構築
<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リハ職が大幅に増加 理学療法士(PT)国家試験合格者数 R2:10,608人(S50:125人) ○ 二次保健医療圏ごとに指定している地リハ支援センターによる教育研修等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTの約8割(R2.3末)が30代以下の若手 ○ 小規模職場(デイサービス、訪看等)での勤務が多く、育成環境が十分とは言えない ○ リハ職のマネジメント力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経験豊富なリハ職を小規模施設に派遣 ○ 大規模施設での実習生の受入れ ○ 専門性を高めるためのキャリアアップ支援 ○ 講演会、セミナー等の講師派遣バンク

- 診療報酬が取れない狭間（患者が困っているところ）
- 急性期・救急対応ができる体制
※合併症があっても、救急対応が必要となるリスクの高い患者でも受入れる
- 呼吸器、心大血管、がん、小児、高次脳などのリハビリテーションを実施
- With新興感染症時代のリハビリテーション医療
- 在宅復帰に向けた支援
- 復職を目指す患者に対する支援
※例えば、高次脳機能障害に関する理解が不十分な所（復職先）に対し、研修・講習を行うなど、退院後のフォローも充実

地域支援(地域医療の充実)

- 経験豊富なセラピストを教育環境が整っていない病院に派遣し指導
- リハビリテーション医療の充実に向けたモデル的な取組の実施
- 他の医療機関が有する医療機能を相互に活かす、ネットワークの強化
- 高額医療機器の共同利用(MRI、CT、骨密度撮影)
- 災害発生時における地域の医療救護活動の実施
- 新興感染症発生時における地域医療への支援

人材育成

- リハビリテーション従事者の人材育成
- 専門性を高めるためのキャリアアップ支援
- 経験豊富なセラピストを教育環境が整っていない病院に派遣し指導
- 外部の講演、セミナー等への講師派遣（講師バンク）
- 大規模施設等での実習生及び見学生の受入れ
- ロボットによるリハビリの取組を推進するなど先駆的かつ高度な研究の推進